

# 今年もお目見えふくろう案山子

## ふくろうふれ愛まつりの参加を歓迎します



8月20・28日の2日間、中川原地域交流会の方たちの指導のもと、案山子を作りました。4回目となる今回は初めて骨組みから作り、無事10体を完成することができました。



### ふくろうかかしができるまで



①まずは竹を割る作業から



②放射線状にくります



③胴体部分制作中



④10体の骨組み完成



⑤いよいよ服を着せていきます



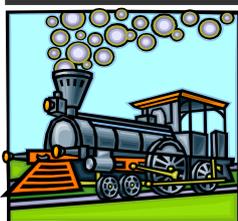
⑥針仕事はお手のものです

# ふくろう新聞

<発行>  
 特別養護老人ホーム  
 淡路ふくろうの郷  
 広報委員会  
 洲本市中川原町  
 中川原28番地1  
 TEL:0799-25-8550  
 FAX:0799-25-8551  
 ホームページ  
<http://www.normanet.ne.jp/~hyoufuku/>

第6回ふくろうふれあい祭りの準備が始まりました。皆さまを歓迎する案山子作り。今年にはふくろうの郷で中川原地域交流会のご指導で骨組みから作ることとなりました。例年暑い中作っていたいただいていたご苦労を経験することとなり、このたびの立命館大学学生の調査、また、島祭り、ソーマン流し等入居者が豊かな生活を送れるのも、いかに地域のかたがたの活動に支えられているか感謝の気持ちがわき起こりました。

## 第6回ふくろう・ふれ愛まつり



今年のふくろう祭りはふくろうB級グルメ大会、ミニSSL、シャボン玉、あめ玉つかみ、宝探し…などなど、盛りだくさんの内容です。また、当日参加していただける模擬店、舞台出演、ボランティアさんを募集しています。みなさまのご参加、こころよりお待ちしております。



今年もB級グルメの模擬店が集まります

**とき: 2011年10月23日(日) 10:00~15:00 (※小雨決行)**

# おたがいさま中川原事業 〜立命館大学生による訪問調査〜

中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンター準備室では8月17日〜20日、中川原連合町内会・民生児童委員役員方のご協力のもと、立命館大学学生による戸別訪問調査を実施しました。

これは以前「おたがいさま中川原事業」について皆様にアンケート調査させていただきましたが、「紙面でのやりとり」だけではなく、「顔の見えるやりとり」をしたいという想いに立命館大学石倉教授や地域のみなさんが賛同して下さり行うことができました。



▲ 厚浜公会堂での訪問調査の様子

はじめのうちは緊張しているように見えた学生たちも、「皆さんとても暖かく出迎えてくれ、ふくろうに對しての信頼感の厚さを感ずることができました」「調査項目が多く、本当にお話が聞けるのか不安でしたが、みなさん親切に出迎えてくれたのでリラックスできました」との感想がありました。

また一方で「あんなたのびの誰かに似とるな！」という話で地域の人と盛りあがったり、今度アメリカ旅行へ行く学生に對して、観光スポットやご自身の体験談を話していただいたりと、単に調査だけにとどまらない交流ができたことで学生にとっても非常に充実した3泊4日になったようです。

石倉先生からも「訪問調査を初めて経験する学生が多かった中、訪問先ではいろいろ楽しい思いをさせてもらったようで非常に

に良い学びの場、時間となりました。」と感謝されました。

また、ふれあいセンターとしても「ゴミだしなどのサービスはできないのか?」「みんなが集まれる場を作れないか?」「今後避難所として使えないか?」と具体的な提案もいただきまして今後の事業展開にも生かさせていただきます。

今回の詳しい訪問調査結果については次号のふくろう新聞に掲載予定です。なお、時間・日程の都合上、すべてのお宅を訪問することができなかつたことをお詫び申し上げます。(濱田)

## 洲本市民人権講座

8月18日、洲本市立人権文化センターで、「ひとりひとり大切に 共に生きる」を演題とした、淡路ふくろうの郷大矢施設長による講演がありました。

入居者、私たち職員も一緒に講演に出席しましたが、講堂を一杯埋め尽くした聴講者が熱心に聞き入ってくれました。

## 戦争の中の障がい者

8月7日、五色公民館で「淡路戦争展」があり、ふくろうの郷の入居者さんと大矢施設長が「戦争の中の障がい者」と題して話をされました。



▲ 当時の体験を生々しく伝える黒崎さん

黒崎さんは12歳の時、空襲警報が聞こえず火の海の中ひとりで逃げたこと、谷妙子さんは戦争でろう学校に通えなくなったことなど、困難だった体験を語ってくださいました。大矢施設長は、断種手術や病院への隔離などを強いられた方についても紹介されました。戦争中、いかに障害者が見捨てられ苦難の人生を歩まされてきたかをお話されました。今は、皆さんふくろうで生き生きと暮らしています。それは平和があつてこそ。今も戦争が続く国もあります。「ひとりひとりを大切に……」というふくろうの理念が、世界中まで広がってほしいと願います。(医務 近本)

支えで、その人生と今の暮らしが周りの人々に感動を与え、さらに幸せに暮らせる社会を変えていく役割を發揮されていることを実感しました。

そのための代弁者として、私たち職員は、「どれだけしっかりと入居者の言いたいことを伝え、きれているか」勉強しながら努力していかねばならないと思いました。

(生活援助：三谷)

# 入居後初めての帰省〜足立聿司さんの思い〜



▲ご親族と自宅の前で

足立さんは入院生活を終えて、自宅に戻られることなくふるろの郷に來られました。

ご本人の訴える手話や身ぶりを職員が十分に理解できず、辛い思いを与え、お互いに不安も残っていました。そんな中でお誕生日を利用して今回の帰郷が実現しました。

家に着くなり近所からお知り合いや親族の方が続々と顔を出してくださり「いつちやん!」「歩けるようになったのか!?」と元氣になった足立さんを見てとても喜んでくださっていました。足立さんも周りの方との再会に笑顔がこぼれ、昔話や奥さんとの生活のことなど色々とお話ししてくださいました。

大工さんの手伝いをされていたというだけあって、家の裏手には自分で付けられた扉など

工夫がたくさん見られました。昼食をしたお店ではお知り合いの方に偶然にお会いして、イチゴを作つて近所の子供たちにイチゴ狩りをさせて下さつていたという思い出も聞かせていただくことができました。

足立さんはふるろの郷でも他の入所者さんの面倒を見て下さつていますが、お若いときは地域でも他の方のお世話をされ、畑仕事や村の行事などでは頼りになるおじさんとして親しまれておられたのだそうです。周りの方はもちろん手話は使われませんが、身振りや表情で楽しそうに会話されています。言葉が通じにくい環境の中でも、率先して人の役に立つこと、簡単なことではなかったと思います。



ご先祖と奥様のお墓参りも行きました

聞こえなくても自然に地域に溶け込まれていたのだと驚きました。「またちよくちよく帰つてきたい」足立さんは帰るときに大事そうに鍵をしまわれていました。また奥さんのお墓参りにいつしよに行きたいと思いきま(生活援助：小林)

## 入居後5年ぶりに帰省 〜勝楽夫婦の思い〜



▲相棒が動いており進さんも一安心

7月30日(土)、入居して以来の5年ぶりに稲美へ帰省しました。

だまつて車に乗っていた進さんも明石に近づくにつれ「大久保」と標識を指差すなど、表情が明るくなってきました。

最初に進さんの弟さんのお宅を訪問しました。弟さんより進さんの生い立ちや昔話などお聞きし、それからお墓や耕作されていた畑、以前に勤めてい

た会社などを案内してもらいました。進さんが出発前から心配していたトラクターも現役であり、安心したようにホッとさられていました。弟さんによると進さんは昔から器用に何でもでき、特に畑作業は得意だったそうです。もくもくとまじめに働き生活を支えてこられた姿が想像できました。

つづいて、稲美ろうあ協会と手話サークルのみなさんと昼食、佐代子さんが通っていた地域のデイサービスへの訪問。皆さんとの久しぶりの再開を喜ぶ姿を見て、佐代子さんが聞こえる人、聞こえない人関係なく積極的に交流を楽しんでいた社交的な一面が見られました。二人にとって日帰りでは足りないくらい充実した1日だったのではないかと思います。

(生活援助：浦井)



▲佐代子さんからの手作りの贈り物

## 夏の思い出2011

8月6日、今夏も淡路島まつりに参加して來ました。23、24日には炬口海岸へ海水浴に。入居者さん達の夏の思い出が出來たと思います。



▲砂浜に打ち寄せる波と潮風を肌感じて



▲先頭でふるろのほりを持つ北風さん

# 地域を語る

## 第33回 (最終回)

### 秋の風物詩

# 案山子について No.3

獣を追っ払う、つまりかかせることからかかしとなったそうです。

今回No.3では、案山子の字源について説明します。

いろいろな書物を見ても「誤ってあゝいう文字を使うようになったそうす。それでは、いつの頃から「案山子(かかし)の文字を使うようになったのか...」

鎌倉時代に中国から禅書が伝わって広まった頃から案山子の字源が見られます。

その禅書を見ると「案山子」というのは、何もかかしのことではないそうです。

つまり家を建てる時、自然の見晴らしの良いように工夫する、つまり座敷から景色の良いように正面の山を主山、そしてその山の側

(そば)が輔山、目の前の小さい山、自分の机の差し向いにあることから案山と言われ、それを間違えていつのま

にか「案山子」と取り違えてしまったと言うのが本場の「字源」らしいということですよ。

今年も去る8月28日、大勢の皆さんと一緒に智慧を出し合ってユニークなかかしを作りしました。

10月23日の「第6回・淡路ふくろうの郷ふれ愛まつり」には、かかしとともに皆さんのご来場をお待ちしています。

※参照：耕学清語らう  
地域交流会会長 北岡 肇

約3年続きました「地域を語る」は今号で終了となります。これまで連載のため尽力くださった北岡肇様、原稿を寄せてくださった地域の皆様、そしてご愛読いただいた読者の皆様、本当にありがとうございます。

今後のふくろう新聞にご期待ください。  
(広報委員会一同)

### ふくろう喫茶とカクテルバーのお知らせ

バー開催日時: 10月13日(木)  
13:30~16:30

カクテル各種 1杯 ¥300

◆ ふくろう喫茶&バーでふくろうの郷の入所者さんと一緒に、楽しい時間を過ごしませんか。

喫茶開催日時: 10月16日(日)  
13:30~15:00

コーヒー・紅茶・ココア・カルピスなど 1杯 ¥200 より



### みなさまのご利用をお待ちしております

居宅介護支援事業所

さくら が おか

# 桜ヶ丘

## 9月1日開所



お問い合わせは淡路ふくろうの郷まで

### 読むたびに新たな

### エネルギーが...

全日本ろうあ連盟理事長

石野 富志三郎

断種手術、差別、拒否、孤独死、最期、眠れない...など悲しい言葉がいつばいだが、生きる、誇り、元氣、出会い、人間らしく...など聞いてうれしくなるようなことばもすくなくいっぱい。

わたしの娘、息子とも重度重複障害者。訴えたくても訴えられない叫び声をしっかりと受け止めることこそ、人間としてのはじまり。

娘、息子の気持ちよさそうな寝顔をみるたびに明日へのエネルギーが生まれる。この記念誌を読むたびに新たなエネルギーがまた生まれる。是非ともお勧めしたい。淡路ふくろうの郷ファンとして。

## 淡路ふくろうの郷 開所5周年記念誌

# 頒価 2,000円 (税込)

ホームページで感想文掲載中!  
「淡路ふくろうの郷」等で検索して下さいね。

